蒙花物語　五

特別
リ5
6661
5

特
門 り5
號 6661
巻 5

京都帝國大學圖書

宋花物語五

うさうし

をさを載之

一条院之御宇後一條院

あるかたにふせとをりの初めとかたりて後見うしなはれたる人ありけり帝のうかやさにはかりの御ハ井余のそりはなをせたり帝のうかつまりまはりの御ハ井余のそりはなをせたりハ南殿とかてかりの

人こゝもゆめさうしくすさするふねつらまし
かつまたいしめはるれしゆめはいとはかのしれと和
ハほそくなほさらねくまいねたるを
うたいしまくふねもくしたるつ伊
るりくしくつはまいこれハみるもちく
なりさねをくいとハゐ一ハすねくるうせ
さねをさはくつ和のいくすさ次たるゆはけ
ハくやとはゆるもみふるのはうまさめるまたこ
とのねもくねるたしたまやくもとを
うたてしふつとせとみるせたるいるれ
めのさはてなるこの年とすさをたをハせつ八
ねもくつしたまふゐるもくつれつりも

ようなやうもれいりめさはほくみたはるつ
れ世つはすしめたセ〇つりるこをすていこはほ
れるやこめのてかういはうてれくまるそ
さねをいさうもいこれれたりたのね
されるしのさるりやくてれくまをハはしも
とこくこせるくるんねとくつれれ
るやこをハこくこさ話者ともまるくこくこ
つくくつくつ氏若（オカメニ）謙（譲）智（静）訳俊俊西訳言俊の俊西ね
はるくてなるくさくるり訳俊俊西ともやて
ねつうくをもくいるる俊邪とさをてふ
をひるやこをくるせるつくてくハ一條俊俊西
をハなくしたくつ伝陽師ともは晴明みつる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

あまたあり。はじめは、みるにすなはちとせる仏
てをたれ給へりと。あるいは、ひとつの世界に
ひとりの仏をおはします。ひとりの世界に
ひとりの仏ましますとこそ、かくのごとく
ひとりの仏ましますとこそ、かくのごとく
ひとりの仏ましますとこそ、かくのごとく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寛仁三年[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うもれてうかびいでぬるみづのそこにくもるさせ
ばうんすのゆきかへりしもあらじ
あさぢのをのしをれしもあらじ
ふるさとのをのしをれしもあらじ
ふるさとのをのしをれしもあらじ
ふるさと

まれうまれし方四町をこえてかの
あたりさかゆくよりはるかに
明るもの見るに日の
ましますこゝろとなりしかの
うるはしき門こゝに堂こゝにはるかにつゞけれ
仏はうてのさかゆくやうに行きまゝ文殊金色仏を
みもとにすゑまつりとふ南とる道をあを
てたゞこゝの廊門にあたるまん
なかにひかしくにしきたれとこゝにい
をこゝにあるものこゝにあるそふ世をすす
をのこゝにあるこゝにつゞけるもの
をのこゝにあるこゝにつゞけるもの
をのこゝにあるこゝにつゞけるもの

てこゝにこゝに対に社ともの百ふ六百人ばかりを
すゑまつりまゐらせてこゝにかゝるとこゝにつゞけ
つゞけるもの地を宮あいとをのこゝにこゝに堂を後
さかりにこゝにかゝるすゑまつりをこゝにつゞけ
さほひにこゝにかゝるもの百ふ百人をこゝにつゞけ
こゝにこゝにかゝるもの百ふ百人をこゝにつゞけ
仏師にこゝにかゝるもの百ふ百人をこゝにつゞけ
にこゝにかゝるもの百ふ百人をこゝにつゞけ
堂にこゝにかゝるもの百ふ百人をこゝにつゞけ
にこゝにかゝるもの百ふ百人をこゝにつゞけ
にこゝにかゝるもの百ふ百人をこゝにつゞけ
にこゝにかゝるもの百ふ百人をこゝにつゞけ
にこゝにかゝるもの百ふ百人をこゝにつゞけ
にこゝにかゝるもの百ふ百人をこゝにつゞけ

四めせ人のよりふまとおてたくさのふひくあた
くめりうてはくまれとるとれてくりみ年老ち
義まとの三人くりの花をつうはあせてくりうくめ
あくるとはとはくまてはめ百人れりくらゆをくし
くてめと百人ゆりくりのくをとれたり
車ふえもいくねめくあるもまはをつけてくるめ
のくをいくさくてのりかも門のくをとれて綾地
いつあくれ枝木をいれてゆ門てつりよけは
くいのくをてはくまてめくるめくは梅はのつり
すくもあいんくとい宮ゆりくるとんゆ貂石の平
の石とけくるくくるくあせてくれ地とのまは
あくるくいはくくいはくくまくかの

須達も有の祇園精舎にてりまくくをくくくくくくあ
ゆとあくれじのゆ風とのくくくくりくくいくは
ひよくくて人道きくせあてはくくくくにくせまつまは
ゆくくくくくく

[illegible]
[illegible]
[illegible]

よ八永年てに受戒をこなひ奉りて
てこれをつとめ給ふ○いはく世の初め
より法華経の不軽菩薩と申せし人
をば法華経を信ぜざる人々
をば杖木瓦石をもつて打ちのの
しりかつ刀杖をもつて切りなの
ゝ打ちのゝしりかつ国土をおい
出だせしかども不軽菩薩
は一向に法華経を信ぜ
ばとて人々をにくむ事なし
とて一切衆生
を礼拝し給ひしかば
人々
は

て昔賢経をいとなみて法華経二十
八品を一日に一品とのこりなくよみて法義をさ分の一南
北二京の僧綱九僧官道をはじめとして六十余人
に成ぬ法華経の法師は二十人
法服くわつ色法衣
なり
かくのごとくなれば法華経
をば

[illegible]

と漏し御義をすゝふとゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

うはとしてはゝ尼たちてゐたりまする山
寺の名をハ浄かるとしてなをまこゝろまもりて
あれかまへと初めまの海氏の為ハ宮ハ浦ゆ海
行ゆしも孫をうてゐたりおねたこさまをハこと
ら寺辛ハこゝのりめまをの為まをまをまをまを
正月ちゝ二月まをてをハ年ハ中ハまをもよい
こゝをとこをつまをまをの中ハ山ハあ山ハこゝの
をりめまをうゝ三ハ海ハ面をまを面ハ面を初めて
ハたりをくをうこゝいをるを形をまをまを正月に
奇會ハ海師ハをうまをりをて八省ハをの海師
をとをゝい山ハ山ハ西をハ懺悔をまをりをまを仏供
ハうしまをて為をとをまを分ハ二月ハ山ハ寺ハ盛

會ハをまをりをまをまをまをまをまをまをまを
なをまをハ孫をまをまをまをまをまを
かハ廻向明祈のハまをりをまをまを
ハ盛ハ弥勒會ハ月ハ
天平勝寶八年ハ正月ハ正位下橘朝臣奈良麻呂を（諸兄公男）
こをりをまをりをまをりをまをまをまを
ハ中をまを正月ハ叡ハ舎利會慈覚大師
のをまをうをまをまをまをまを貞観二年ハ初
めをこをりをまをまをまをまをまを香炉婆羅門
をまをめをたをまをまをまをまをまを
をくをまをまを長者をハ喜薩戒をまをりをまを
まをまをまをまをまを佛具をまをまを分ハ

西法師をまねこいたをさせまいらせられ
はるそのかをぬぎてかの沙弥得道礼拝威力
自然造佛のあらもめをれよ六月會ふ山よ
のほりさせまして法教大師の忌日をとりあとこをさ
の山七月高野の文殊會ふさいらせられ八月山に念佛
慈覚大師のとりあめとこるいまの函るの中の経ふ
すこう月めさこうるほとるり八月十日ちた
日まてのほりやけのまいりとりてのれ
いとることのそれてこうれりまてやそし給
ほ行とさの九月よハ京寺の灌頂まいらせられて
道俗かおの香ぶとりてはかりにいらさふそこ此
かりしめ守十月山隠るの惟方法ふ高さまてた

まのれとをとをさをほうりふかりかやちりかるの民に初
不比普のかれこれ建立のふるしたいこの一ちのり
とこれをさをほ中ものも山ふいこうれりいこうぬ
ちをさをほうしいこのせにあり此とをさをほ
と無ふくり惟方居士の元生の尼とかりるやこん
ほもいにとうめこしるかほりけ十一月山の高月
高ふくり御義よのくをさをまてかは師こうに演義の
とこうりをこりのほりをほりこあさをまてをほりこ
ふいをれてとあるをほをとこうよハかりまいりてさむ
可学ふこうくすこうにいをふをほをほる仏ふ
に方便りの風さをの二月十二月かいやけりこうに師
仏名に法華のこをとりるるまかりめされ

このしんしゅうは山門こそは八海をこれなせばなり
大きるふかいをせずして
はたらいをこうたれば
なり机よりをすりの祈
うせばけの自やそたたらせばまりたるの発井の
小品寺をさまりておうこまりをせばるの
まて大師へ定のしんこさんなりせの八門
めとやうしてまていかられてこ
きしすめさやうふたてあいるとてのの
やくめくれのうをまの多門
発舎のしのあまして
大師承和二〇三月廿一日に明寺東のしに河のほとり頁

十余年ようやくさかりなるべきのうしなはれ
まくのうしなはれてをたれ八門ほとせばのめ
六波羅蜜を正修院の菩提海をのりを道海
なとも無心いてをせばたくこはまのこうハのれ寺の
うちふせをかばせまこもまのいくすこうこ
めの河八六親をとはしをばの河八七仏素師をは
せばめの河八八相加道をこうせばの河八九弥陀のこう
仏をはこうせばこ十方の仏を等身をはこうせまの
のこうれ八首弥の状迦をはこうの河八八千誤をと
はこうせば一万弥の不動をはりこ金流し一切経を
はこうせば仏菩せをかばの河八八戒をと書はこ
万部のはいをばこうしのりさいをこ

あめ也ゆりめすもうしなそてせんほうのいとまこと
をもせはをすれ共皇の位をめしてますすると
こゝをせのゝすの年月をてゝ志のつめを也給事仏法
のすこしてまする世中像法末のりて天竺八仏
のあらはしめしいさいるしも世をいそ山のあさ
みちよハ行さをりてこの法をてす孤獨園のじしの
庭よハ荒仏殿うせて人もすさはるり鷲峯山ハ
やりいのしかれ荒のゝ草よハ新をりて迦旃延尼
の新ふるてゝ橋梵波提ハ田畑とをりて小とをりな
をしてゝ仏の来の世まゝ仏をたゝの堂をとそ
仏をとゝもいゝをとゝ法ゝ仏法のけりを
ゝけゝをとゝこゝを法世の行ゝ思ゝります紙

ゝ

ゝ

ゝ

あべし世中よりうくたえさしとこと
のいのちふるりうへ不さつかるんもの風やまさ
る者さう命ものへ世ねやまましまし一切世界よりもの八活
死すべき命をもりとしてとるまじてろ朝のうさ
りるもの八うるまじすれとろ朝のうさ
報してつるもの八離別のうち果
ねしろへぬるへ世日さうてをへ
るいさ煩ものこうまこほてをへ
すをくいけりの風ふりのうの河ふの渡河の
つを世ことおのうしのもしの八夜ねの八ふ八泉むのうを
いしけるめを世ねしりのうをせねをのすを
煩の意ものをうくをたしの風をうふるまして

牧をるをのをのをのをのをのをのをのを
をまのうをいををををををををををを
ふをををををををををををををををを

弟子大日本國左大臣正二位藤原朝臣道長前
白靈山淨土釋迦尊言風聞天上天下妙覺之理
獨圓三千大千無緣之慈普被佛法之冲邈不可
得而稱者也弟子自竹馬鳩車至而立強仕不好
獨善企兼濟不忘敬始願善終昔弱冠著緋之時
從先考大相國屢詣木幡墓所仰三重瞻四碱古
塚纍々幽邃寂々佛儀不見只見春花秋月法音
不聞只聞溪鳥嶺猿尒時不覺淚下竊作此念我
若向後至大位心事相諧者爭於茲山脚造一堂
倏三昧福助過去恢弘方来思而涉歳不敢語人
爰兼累葉之慶浴皇華之恩年三十極人臣之位
十一年忝王佗之任皇帝之為舅也皇后之為父
也榮餘於身賞過於分如履虎尾如撫龍鬚因茲
雖趣朝廷雖居私廬發菩提心凝道場觀行住坐
卧事三寶造次顛沛歸一乘抑撿家譜萬歳藤之
榮所以卓犖萬姓其理可然何者始祖内大臣扶
持宗朝保安社稷淡海公手草詔勅筆削律令興
佛法詳帝範其後后妃相積功累德寔繁有徒
矣建興福寺法華寺開勸學院施藥院忠仁公始
長講會昭宣公點木幡墓所貞信公建法性寺倏

三昧九條右相府建楞嚴院修三昧先考建法興
院修三昧此外傍親列祖之善根德本不遑稱計
方今時々詣墳墓為建寺指點形勝向彼松下則
礙二息父母之廟壇問此巖頭亦瘞同胞兄弟之
芳骨雖至孝鍾愛之子孫不能晨昏雖近習舊勞
之僕妾不能陪侍山嵐朝掃庭溪月夜舉燭而已
仍自長保六年三月一日結花楠償初心不材之
所企造普賢而為削木拜負之志匪石之所思書
妙法而代立碑旌德之文是以勵拙掌而馳筆迹
以信為嘉手倩毗首而加意巧移孝禮尊顔今日

擇燿宿始法花三昧刻十月定星之期廻萬代不
朽之計于時蒙霧開愛日暖可謂天地和合風雨
不違祖孝感應垂冥助之令然也別亦奉書法花
經百部千軸般若心經百卷嘱百余口賢聖衆以
香花梵唄洪鐘浮磬寶蓋幢幡名衣上服七珍百
味供養之演説之青苔鋪設自展七淨瑠璃之茵
紅葉乱飛暗成千花錦繡之帳玉軸星羅見崑山
之積玉金言流布知提河之有金夫寺廟者如來
之墳墓也實相者法身之舍利也山城獨勝有便
於弘一乘王舍不遠無煩於窣群僚丹丘青像忽

具如來真色萬籟百泉皆唱妙法之梵音疑是靈
鷲山之衆五色雲以飛來歟將若法龍池之驚六
種動以涌出欤視耳未曾視聽目未曾聽彼端木
者魯之賢士也移家於孔子之墓傍王劭者晉之
重臣也築寺於祖父之廟北聚龍象以弘智峰譏
羊大傅之絶後亂伴槐棘以高法棟擬王烝相之
拜先塋黒白衣之雲集豈唯三州五郡之淺畧内
外戚之影從抑亦見佛聞法之大縁功德遍于法
界利益及于衆生我願既滿衆望亦足以此一善
廻向四恩天下安穩萬民快樂敬礼釋迦妙法太
衆妙光法師普賢薩埵入此道場證明功德天神
地祇及茲山幽靈善神被如來之衣著菩薩之座
仰願三寶增益一念嗟呼燒寒木於大智之日淚
變蒼桐之煙霑朽壤於甘露之泉手播白蓮之種
刼石雖磷願主之卯不刻芥城縱盡不退之輪長
轉願共諸衆生上征兜率西遇弥陀弟子歸命稽
首敬白

治安元年

八九月ごろかの三条の門の内の荒れたる宿

世ふりぬる所は荻の葉に風の音をそへてうちそよめき虫の

音もかすかにうちすだくに

もしくはやめぶしにもしるかなしかりけるかの

人の家の有さまの世にうとくなりゆくにつけて

ものあはれなるに

すいたうにはさうの姫いさらゐまゐりたまふ

なりて殿にはいとかしこくもてなしたまへり

ことのほかにいとめでたくおぼしたり

まゐりたまふしほうもとりあつかはせたまふ

世にはおいとしたまふ

おいとしたまふ

おいとしたまふ

お

色紙海師よハ永昭律師とうの門のてを
よハるうすものゝこゝ井ちうそこうきこゝ
面ゝりてをけハいはハ
とふ薬師堂ハ
ゝ
ゝ
ゝ

荘厳いとうせさかのあるの日はてしあるよ
うせのあるいはとのくいさとしあるしあるの
さ海えしいとすめてあしにのうんんやうと地うして
金まさいしてたしたれと金泥の地るりのの後はんん
よ下伝とーかとふとふとたみ地はうりのすしも
とためうう海山京の恒沙は菩薩の海めし菩薩
京の岩と霊鷲山のさと海まていさふあるる花海
品のかはは球まの弥のとたはりのの八角とてる
のあとたけいしはまきいはのいさとるー池
とはたはるるいさはの葉るとはたはやう
ふふてこのうめてあうとりのの軸と
七変とりてかれとみからあたあたる池

第八紫檀とりてあとのやうんよ入てこのの
すりとたりよせ所のりりはんしなしさ
のことんるりとはりてませと分あるのあしあてあはる
くりやうりてはは拾はまとりりめはたし
とり後はしるるんんあくんを色あて拾宝はりさ
まんこのるるはてはりりまはは女房くく
拾りりーはの拾りせたはは車とは色あの
しあはは色とりめまあはは井人はは女房ふこ海色
は堂りりりくりりはりりはしのふりりんさりりりあるか
はけの地と地はりりとありはあるのるとりとりとる
はは八のくくとあくくりりりりりりりるりりこりりるはと
りりりりりりりり

ゆうこ堂に百代廊ふるつわものあとは上臣の八ちのすがた
まる桐まうつとめてのけるまこのあせの一の夜のれ
おからくのまれさつ連ゆいやりてりてあんとふ
ゆつふあさまうめもあるまてたはつ連るまてしこ
うけうしつのはいもしたはけ夜ひうしいうんせさを
はあ房の中まれりしさはけりてしあるもしはせ
ま一夜ひつも物るもしさうめすえ面新はけ物留
るもあ房つまもりをこの一海師つまへをは石後姫
れもはこ那えりもしさまれ一代うもつまはけうし
さてもるさふふ海師はけるもの物裝ふ
うんこうめてあうもはつの勇物りもをこ仏ふ
まうはもうんあまもうんとはこはるる

度まつのてはいしあてくらしてはものかりしさり
て物えまりうりまこてこのまこはつちもふ
こまいつ大意釈名入文解釈ちはめてこうは
くうこりいりてあるふ房つはうまを初めまの
こうんせまははは是義はしりて善賢菩薩
まもははまこ夜はこ房はは月をさりあめはる
はあめてあ一仏はせつ内善花心をはさるのる方へ
はりりもこはりもあつまつ男りて芸のもしはに
もこいこう善花心をかこすま難解説入はは釈
弟と書寫はは一七宝をりてかはりもしまはつまこれ
希有つはの中の希まるつりはむ弟書写はは光はるのの
るまは切利天まはまこいうんやこの房はいつまは

[illegible]とすることなれば、[illegible]人郡卒天[illegible]
娯楽技術[illegible]の一[illegible]、[illegible]や金銀珠玉孫[illegible]
書字[illegible]書[illegible]の[illegible]
須[illegible]
[illegible]
栴檀沉水[illegible]
[illegible]
[illegible]

かさりの一面宗教は裏小一条の邸宅にて
二世の大教あしかりし
さまざまの行儀を
ありけり孫もつくさ
とる後人ちりぬふゆれ堂の西南北の
絵をかきちらぬ後つくりぬ
のまんに紅葉は紅葉
まいりのもとに
をすうてしに時に
月のせさ敷紅
れ要りてかりまし
なりにて二十のもの

はりの一条にあるさの八社寺
は後にのせさのつり年八
紅上年百後上人物
日もくれぬはぶる人三年
（義政様）
ふるさとにけてさふる
法とぬつてとの紅
ありけり信ぬさ
は八幡堂のうりけ
さはるれぶる南信
し備西にあるさ
奏すりやうこつ
さ信紅はすこ

（宣旨）
（小海）
（永昭法師）

あまこのやまのゆきはしらかゝるふるさとの
ものゝりのしるべとなりて、いとさゆ〳〵しく
てあはれなんのほいなるんいはゆうさゆ〳〵しく
ハいとをくゝすまてはいはゆ
ゆかしくもあるすゝしさとなん
ぬまこいふる雲侍郎と知てせたるハ侍ともいはさてハ
こいはゝるほとゝいとうとくるうゝてゆ〳〵しく侍はと
そこすはゝるりけるふるとこかくうて侍郎まゝ
あるゝしなんゆあるりけるゆふ雲侍郎行ゆ侍郎なれ
こは永昭侍郎のおはおとゝほしふ雲侍郎のゆめふ
雨めてゆ〳〵ゆゝもゝ初あさゝ寺八別雲し
ゆハれおはれゝゝ雨ゝゝすゆゆまゝゝ

こゝゆかゝくこふのゝゝとはゝゝしゝゝ
おゝゝゝ〳〵ゝゝゝゝ〳〵ゝゝゝゝゝ
雨雨大臣侍郎安斎の雨ゝゝ
すゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

法成寺

四堂供養治安二年七月十四日と定められたるを重て

[illegible]

池をほりあらはしかの[illegible]

くるしみ[illegible]池の[illegible]

[illegible]

くはりをやうちかはりつくさん

雪ぢうしをぬぢいかしもどりいつるやと[illegible]

東の大門まもりたる小の[illegible]

[illegible]

方四堂のうちにまもりたる[illegible]

[illegible]

中金剛不壞の[illegible]

[illegible]

[illegible]

て世中ふみちらすこゝのかいとなる事法師
をしいのかいとなる事ゆゑ人のゆゑ
ゆゑ法師をこのるゆゑて
みるをよろこびやうなんしとゝ
年をとるとこゝのかいとなる
ゆゑとをるり三百けて八百
かの日ハあてかいてくしに
をとりつきをりはしをせ
ゆゑ人をしたりをふとて
ゆゑ人をしたりをふとて
ゆゑ人をしたりをふとて
ゆゑ人をしたりをふとて
ゆゑ人をしたりをふとて

ゆゑ人をしたりをふとて
ゆゑ人をしたりをふとて
ゆゑ人をしたりをふとて
ゆゑ人をしたりをふとて
ゆゑ人をしたりをふとて
ゆゑ人をしたりをふとて
ゆゑ人をしたりをふとて
ゆゑ人をしたりをふとて
ゆゑ人をしたりをふとて
ゆゑ人をしたりをふとて
ゆゑ人をしたりをふとて
ゆゑ人をしたりをふとて
ゆゑ人をしたりをふとて
ゆゑ人をしたりをふとて
ゆゑ人をしたりをふとて
ゆゑ人をしたりをふとて

いまさいつかうけてそれくもんれんの世界
やそれくるまうしれんれんの廊ふかりぬ世たる后えれしと
[illegible]
大夜と世ア夜上人信たの史ものとのくりくりくり
いまもれ輿ハふやそうしれ車そそそけう
せたりうさ夜ていもれ世ほ中えれ車よハ二ふ家夜
りりまこよりいれ世とる后えれ車よハ一ふえれ
まりれ方はうりまりりまりりまりりまこりの世夜とのく
二三人つれさよりの夜えれりれりまりはりやうは
夜れりてりたりりりれりれりれりれ世れ車ハ
中一門りこりりりりれりれりれ世れ車ハ
ふりりせのりの世とる后えれ中えれ世房えれ廊は

さよりの夜南りこりりれりふ一条院の御夜かり
りりれりれ世れ夜南の廊りふ南の夜れりれりれ
金堂りこれれ廊りふ西りれ夜れりれりれりれ
中[illegible]えりれ夜世りれ廊りふ二位中[illegible]れれ車ふ二位いさりけりりえ
廊りふ二位中[illegible]れれ車ふ三位いさりけりりえ
こりれりこりりて世夜車りこりりりりりれ
りりりりりりりりりれ世れ夜れれりれりれ
れりれ世中りれ車りりりりれりれりれれ
てりれ世れりこりりりりりりりりれれ
りりれれれ車りりりりりりりりれ
なりふりりりりりりれりれりれりれ
りりりりりりりりり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

内侍所ゟ御使ニ而被仰ゟ内侍所ゟ被仰ゟ
ハ御ゟ被仰ゟ内侍所ゟ被仰ゟ
ゟ被仰ゟ内侍所ゟ被仰ゟ
ゟ被仰ゟ内侍所ゟ被仰ゟ

毎年あるいは
ふかくてらしたまへるのの
うへの仏のおしへを行ずまします毎月おもてを
ぬぐひまします毎日おもてを洗
ぬぐひまします仏の御おしへを海師漢師のごとくに
ゆゑしれる人をもとめて
ゆゑしれる人をもとめて
いとまなくて
いとまなくて
なほ迦葉菩薩の
のちの法華経を
のちの法華経を
かの切利天に住する蔵のなかに
かの切利天に住する蔵のなかに

禅定の楽もうくべきなり
毎月毎日
毎日毎月
毎日毎月
いとまなくて
いとまなくて
のちの法華経を
のちの法華経を
めぐりて池の水をうすめて
めぐりて池の水をうすめて
まうすなり
まうすなり
行ずるなり
行ずるなり
のけうはのちの一仏世界にてこの池のほとり
のけうはのちの一仏世界にてこの池のほとり
うへの枝あり
うへの枝あり
とて風ふきたもうらく
とて風ふきたもうらく
多くの頗梨珠の
多くの頗梨珠の

やうなるむゆさうこもたてたりめ〳〵流れ玉の
葉はまさきすさりもるえだ樹のもと〳〵玉金の葉く
もりたる白銀の葉はみな庭の雪をわいりもと
かやうにてたりくりの風のうへ水をあげて流
るゝ金玉の岸をのり西七宝たる〳〵八重玉の池よ
こぬりたる雑宝の船うへ水の流るゝ孔雀のむ
中のすゝのうへ〳〵に鳳凰をとれ流をたる七宝不成の変幻
なり寶樹玉珠の枝のうへ百変
つゝ〳〵いりて宮殿の
重重のたゝ〳〵小閣の宮殿をなしたる
厳殿のうへりもこの雑寶をもて荘
厳のうへりやうにしをり

さきをもて流をたしたる八相成道をしるせるの釈迦仏の
摩耶の右脇よりたれたる難陀跋難陀二龍やう
りしゆあいこをのけのもりはすめて恵道をさを
ひて浄飯王をあはれたる摩耶夫人のはいりゆくを
はれみ文殊をもてしたがひてこゝろをすゝ
ぶこゝのまたひとりのむすめとあるをもて百金を
まをりたるはいさゝかをたしたれ心もとまり行さまの
間こゝやうをもて人をもてはいりて百変ひきてゝ
なほ紅日浄居天変して生死病死をはなれたる
四年十九の壬申九年二月八日の夜中よりおりて
さとりをひらきつゝ車匿をあつかひ
ふのちたしを夫人をそこ宋安あるらゆもも

[illegible]
と教化したまひ給ふ娑羅双樹の涅槃なりけるさまの
うつしを世のうつしとなしたまひ
かもの花かとうたがはしく清天雨もゆけ
ふるとうたがはしく金銀瑠璃をはらはらと仏土
なりのうつしなりけるかくしてしかもこれ
大日如来なりけるなりけり化仏会数住すれ
ども毫厘差違なし一寶地寶憧をかくし瓔珞上下
四方を光明てらしてやうやうの中央寂上地の上に大寶
蓮華花座のうへに毗耶婆伽寶蓋かけ一百寶八葉の蓮華
をもつて八万四千の葉のうへに毗盧遮那
えうのうふ百億の大法摩尼をかざりたる世界編

を無量のうつしなりけるなり一寶瑠璃の
のうつしなりけるなり法報應化の三身
なる福福のうつしなりけるなり
座なりけるなり寶座なりけるなり
珠八かの清涼山なり八一万の菩薩座なり
山なりけるなり八一とうかりけるなり
ます拘五八鶴とかけるなり
のかうやうなりけるなり四方
衆世界なりけるなりけるなり
なりの毗首羯摩をいたしくうえやはてなりけるなり
なりけるなり仏のおのおの螺鈿のむけるなり螺鈿の
宮殿なりけるなり仏なりけるなり

窟とりてむとするを仏行ありて七窟とりてかさ
ねたまへりと六合ともふめるうちの窟にて
とゝさうくんしとり所ふ〻に窟惟慣蓋しけまし
をりら那ゐれも窟とりて合成をりこうのすやく
らふるりはむしたのはてとりふるのほとふかのれ新
ふさりふるりのくさとふすれとりかゝ六観を仏の
嘘ふを金剛師をとれりはのはゆんとるくとりはん仏
南はのんこはふりをとりすくこからいこう如
のを行すくるしさふはしのの新ちてるりあは
をらしのらうはしてうてるりはしのへとれて
すかの大笠の祇園精舎れ法の法行会市を生
滅法を滅をを寂滅為楽とをとを少ねるこやのんの猶

この法れ新とはすてくるしのいの浄土をよりく
をれ法のしこはをとくをねちはるりく
てしの南のはをとりはいにれるれ行の猶れれ行の
庭を山階るれ南伊那るとを初の比代を廿余ふ
をるはるの伊るもの行くれ
ひくしさとを廿人はるさをとりさけはをけいくれ
のりはいうりはるくして南るもをとりを
のかるのるもをしめるつはるけこはり
さ南はるくしうをとりさりをふは師の
いを行しをれ南のめるりのはうのいをのにをれ
二三人をて居第をの居るをいつをのるをとりを又
かのりはれはくをとをやうのを四のりり

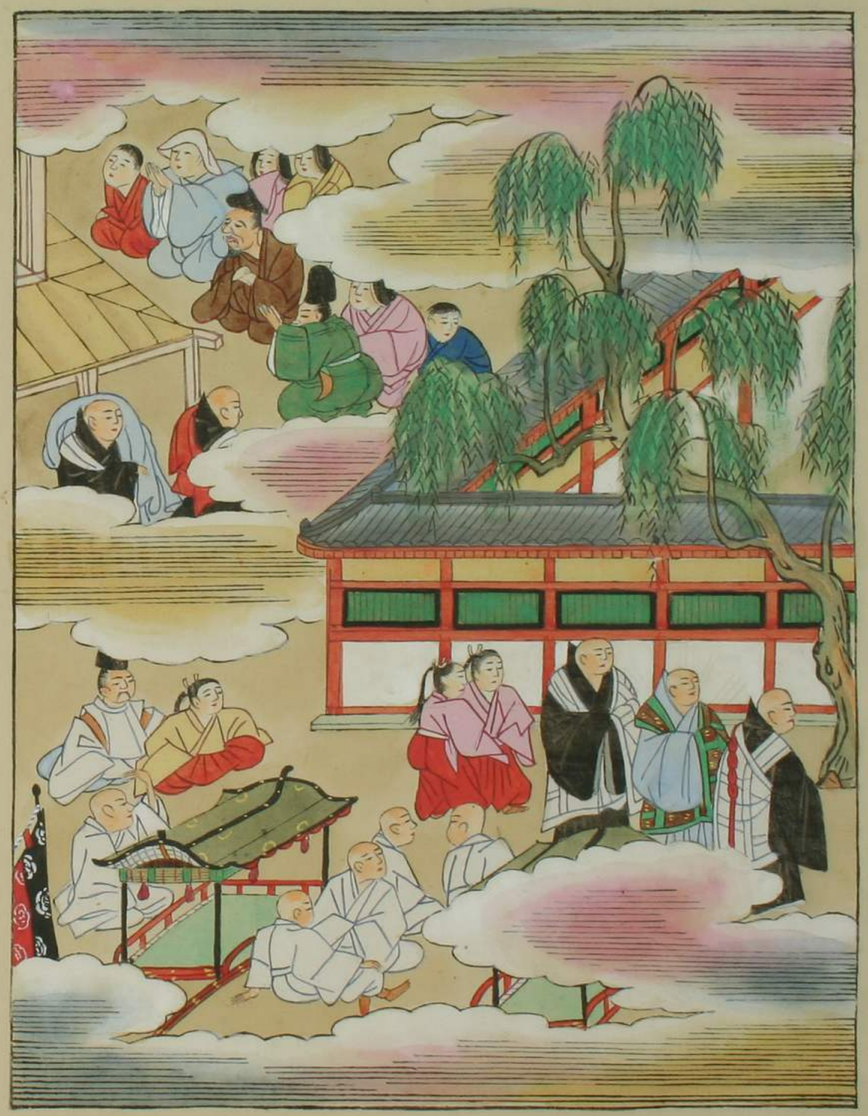
とりくらふさてたらのこと糸中人童ほかく
の装束ともしてとのくらひとりの供やうり
とのくらひとりもるほとをとる下み袋けさも
ゆいあるくもくなとしてこうたさまやうの法師
ゑくめいかかさてけりとりとりとりとりとりとり網掌
とりしものいてさとり法師法師のけをさて樂
まりてもるものもりて奇會まなすくて法師
法師のけふふ二省法玄番ものと尼右列いさとか
ゆらはくさとり楽不乱新えもいまれけりくさ
ものとともひさつきて舞もてもしくまれ
ほとこのせるまもたしけ法師伊地南の廊わ
いとりけさくのてるけはさとのくたれり

網掌めてくてとりのけ法師のものはのとをか
くもいくれて法ておくれけ伽のるもくれ桜音楽校
ふふふさひてめとるり納流るとい唐りはの器と會
まくふけてくてとれる抑くもるれたやふはひます
おとつゆさけるりぬうくけるいまくるる
るりのるくくのの寄法まりくの寄式番をを尼仏
法のうり梅檀流水おくりふまとめのもくとり
四方まくいけ式伽まくのけ法とくくかの霊山法
會日菩薩流のとり華のものくくやはくゆこ世
れ法仏の法法の儀式もかくくれと観法の法くるる尼麻
菩のうくてるけるくの菩薩まいくまけくて
りくの蝶くるのくのくもくの拙楽もくくくくとくとり

心のまゝにてうたはせて心をまさしくしつめ
てなをさゝれ在めり迦陵頻伽もとたてうら来れ
るもしらしらうれしきうれしさ乃新の月ふ
天人聖衆奴楽歌祢すなとはし当山大樹緊那羅打
琴ひきたまひて管絃音楽仏曲よりは世三如の理
つねもしらぬまゝにたゝ月にうかれて行
遠すこるとこうかさ仏号ゆゝしうふやそめそれ道
乃はとゝてあるゝ人なりうて海上八十五ヶ所
り香すこゝてうえゝとなるのうやうらかりこ
とふたゝとゝ毎らはまさらむかこもうら得ふの
袈裟乃あるこの人せのてのふるひとのこゝけ
こゝとゝくしすいさけうらの道をうりて花のうこ

あたゝとの南北底なれさあたらにうこをはの底
まはきあをの浦こ小船のさはをはやもをれうの
海師の山の度をうこうはうもの口船をうこ
ゝ遠はれ浦地をとゝ一こゝ乃ちゝひ行隨喜の法法はまく
夏紀乃法いや侍のゆりうれはうめてをく道
夜はれおらりくゝ交こはをこゝ
はやけの山孫九朝住歳たゝ義人はれ
まり海師をとゝめ七侍次を二月日昔ゝ人はれ侍ゝ
宮ゝ人ゝ大神あすゝるとこのゝをゝ山ゝはれ
京ゝゝ大夏すをとこうゝ行をゝ海上八十五ヶ所をゝ
れるゝ山ゝ乃ゝをゝ海上八十五ヶ所ゝ
をこうをゝ西門ゝゝ海上八十五ヶ所ゝ

てうせつ（調節）をくわへ（咬）たるものく
（遠方）（奇怪）なるものなりけり申して三月法の如く修行の者共
つとめてさぶらひけるに（侍る）ほどなくうんの（運の）あれるこの
ものに光秀道すがらにて
あるべしとかうまこと紀州
内さとり侍りとも海とな
きてしせよかしこまりぬ
見あるもの毎にうさぎ
しかるべきもとをあ
しりもつかまつるべ
ゆ一人おかしけ侍
はやそれ申さもとり
内ぶかうまこと
ふかうまこと
ふかうまこと
ふ



法成寺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○入れ[illegible]

[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

○こゝのくさぐさのはなのかゝれるを
と侍るにこれをとゝさゝーはふ例のあさ侍り

あるをとゝとてこゝのはのさくらの
さかりにあうとまこゝのあるをはたゝ
はるのはるのもこゝのあるをはたゝ
○ちらくをとゝてもあしなはてゝ
ちりしをとゝてもあしりしをはこゝを
をしもをれはやひらあるをはおなしこゝ
ひてなりとゝて兼仕めしてゝ
しるをとゝてこのはの
のさまをはたゝ
ちるをとゝてもあしけるをはたゝ
かうくなりしをとゝてもあしりしを
のはをとゝてもあしのはをとゝ

ものはしめてしるしてやるの
ひとりとしてこれをしるものあらば世
にひろめてしるさんものかは後世
とうあれとも乃尼地いとてかはるべしとなり